

上山地区社会福祉協議会

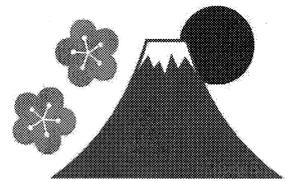
社協だより

第41号

発行 上山地区社会福祉協議会 令和8年1月15日

発行責任者 近藤 弘

5年後の 皆様は



上山地区社会福祉協議会

会長 近藤 弘

新年明けましておめでとうござ
います。皆様方にとりまして明
い1年になりますようご祈念申し
上げます。

山口知義前会長の後を受け、昨
年4月から就任いたしました、上
野町の近藤です。不慣れな私です
が、皆様方のご指導いただきなが
ら職務を遂行して参る所存です。
よろしくお願い致します。

上山小校区全人口（令和7年11
月1日現在）6,741人。うち65
歳〜74歳、844人（12.5%）
75歳以上1,047（15.6%）
合計しますと1,891人で全体の
28.1%であります。今、高齢
化に向けて、市中央部地域包括支
援センター・地域の自治会長・民

生委員・老人会長・福祉協力員・

介護・医療関係者等で『住み慣れ
た地域で自分らしく、いつまでも
いきいきと暮らせる地域づくり』
をテーマに、令和7年7月29日に
開催した『語らん場』では、それ
ぞれの町を目指す姿・目標を考え
ました。今、住んでいる町が『い
い町だったと思えるような町・高
齢者の活気がある町・いつでも誰
とでも声かけあいさつが出来、元
気、やる気がある町・グループの
活動の輪を広げ若い世代も町のこ
とが考えられる町・お互いの顔が
見える関係、隣り近所のつきあい
等、今ある活動、組織をつなげる
町』という意見が出ました。地区
社会福祉協議会にある色んな事業
を活かしながら自治会で、老人会
で、いきいきサロンで、隣保班で
色んな活動に参加することで地域
の輪が広がり認知症の予防にもな
るのではないのでしょうか。

さて、皆さん、今回は『5年後
の自分を想像してみましよう』を
テーマにしてみました。『語らん場』

の意見は『健康』については、90

歳まで生きられたら感謝・介護に
ならなかったらいいな・認知症や
ボケにならずに健康でいたい・歩
くことを心掛け元気で生活してい
きたい・家族に迷惑をかけないで
いたい。『活動の参加』では、グラ
ウンドゴルフや囲碁を続けたい・
サロン等いろんな活動に参加する・
南地区の龍踊に役員として協力し
たい・ラジオ体操とウォーキング
を続けていきたい。『地域との関わ
り』では、民生委員をやめても地
域と関わってほしい・朝の見守り
を続けたい・一言の声掛けを行い
近所の方とのつきあいたい・町
内の仲良しが増え、おしゃべり会
をした。『趣味・旅行・家族面』
では、孫の成長を見てみたい・ひ
孫にも会いたい・毎日のんびりと
お酒を1合飲めればいい・夫婦で
上山の山登りを続けたい・夫婦仲
良く散歩したい・冥途のお土産を
考え楽しい思い出を作りたい・被
爆体験を伝えたい・年2〜3回旅
行したい・全国を元気で旅したい。

サッカー審判及びインストラクターを継続したい等沢山の意見がありました。まとめとしては、皆さんそれぞれに5年後の目標を考えて1年1年元気であること。それには健康と体力の維持が大事です。年をとると悲観的になりがちですが、皆さんの意見を聞き、年齢に応じた生き方を、また、今後の人生、地域の人達と支え合って暮らしたいと色んな思いが出ました。皆様方も年を重ねてどんな暮らしがしたいか。また、自分自身どうしていきたいか、せつかくの機会です。ぜひ、5年後の自分を想像してみてくださいか。



「スマイル上山の原点!」

諫早市立上山小学校
古野 祐一

昭和35年4月に、上山小が開校した際に定められた校章。そこに込められた願いを紹介します。

上山小が誕生する3年前(1957)、ソ連が初の人工衛星打ち上げに成功し、宇宙時代の開幕と言われました。人類が宇宙に羽ばたくための教育の基礎が、学校教育にも期待されたのです。そこで、「上山小の子供たちが宇宙に羽ばたく人間として育ててほしい」という願いを込めた校章が作られたのです。上山を囲む◎は地球を表します。その周りは星、つまり宇宙を表現したのです。また、◎は輪であり、円満な人格と平和を象徴しています。平和は、人類の最も理想とする輝きを放つもので

す。宇宙開発は人間の知性を表し、平和は人間の徳性を表します。その二つを統一したものが上山小の校章に込められた願いです。

この願いを忘れることなく子供たちが輝く教育を進めていくために、今年度から学校運営協議会を設置する「コミュニティ・スクール」に移行しました。今年度は、時間をかけて、地域や学校の課題を洗い出すとともに、それぞれのよさや強みも共有していきます。地域と共にある学校づくり、学校を核とした地域づくりへと、一歩前へ進める1年間を描いています。地域の方々の協力が、とても手厚い校区です。学校のカリキュラムにも地域皆様の参画があります。2年生の芋差し・芋ほりでは、自治会長さんをはじめ、健全育成会の皆さんが来校され、事前の畝づくりから芋差し、収穫の芋ほりまで丁寧に関わってくださいました。

これからも誰もが幸せになる学校「スマイル上山」を創ることを、学校教育目標に据え歩みを進めて

いきます。令和8年3月17日(火)は、開校から66回目の「卒業証書授与式」を開催します。子供たちの晴れ姿を皆様に見ていただきたいと思います。

「歌」や「やわつわ」

諫早市立諫早中学校
校長 田上 颯一

本校の校訓は「かしこくやさしく たくましく」である。本年度は特に「やさしく」という言葉を大切にしたいと考えてきた。

人間の成長において、最も大切なのは「相手のことを理解しようと努力することである」との説があるが、私も同感である。現代社会においては、SNSや電子頭脳の発達により、人間関係が希薄になる傾向が感じられるが、「人は、人を浴びて人になる」という教育の本質は変わらないと信じている。その意味でも、校訓の「やさしく」は、人と人とのつながりを象徴す

る尊い言葉であると考え。

本県では昨年、九月十四日から十一月三十日にわたり、「ながさきピース文化祭二〇二五」が開催された。この名称は、第四十回国民文化祭と、第二十五回全国障害者芸術・文化祭の統一名称である。その基本方針には六つの柱があるが、その一つに「文化芸術を通して平和の継承」が掲げられており、まさに統一名称にある「ピース(平和)」に直結する要素である。

そのピース文化祭の様々な催し物の中で、「長崎の教会で歌おう『祈りの合唱の祭典』」が、十月十二日に長崎市浦上天主堂で開催された。そこでは、本校の合唱部が中学生合同合唱団四校のうちの一枚として出場し、他校とともに、美しい歌声を披露している。この催しが、「平和」と「歌」のかかわりを考えるきっかけとなった。

昨年(令和七年)十二月八日(月)の長崎新聞には、「日米開戦八十四年手帳に託された本音」と題して、戦時中の一人の若者が残

した手帳等の内容が紹介されていた。その若者は、十八歳の若さで特攻隊として出撃し、帰らぬ人となっている。

次は「思ひ出」と書かれた鉛筆書きの手帳の中にあつた歌である。「(抜粋)わがつとめ 榮あることとおもへども 裏には誠のなみだこぼるる」

また、次は、「別れにあたって」と書かれた最後の記述である。「(抜粋)今日はいよいよ敵を求めて出撃します。まるで人生は夢の様でした。出撃の今日になつても征く様な感じはしません。何だか休暇で家にかへる様な嬉しい様な感じます。故郷の山川雲仙嶽をよく家の南側の縁にてながめたものです。英昭(末の弟)の一年生の顔もみたのですが、これも未練ですね」

昨年十月下旬の修学旅行では、福岡県の大刀洗記念館に行き、先人の戦争について学びを深めてきたところであるが、十八歳という若き命が語る、この言葉には、強く心を揺さぶられる。言葉を手掛か

りに、彼の心を理解しようと努めることは、人としての「やさしさ」に通じるのではないか。

昨年十月十日(金)、本校全学年による合唱コンクールを諫早文化会館で開催した。七百名を超える諫早中学校の生徒たちの歌声は、観客を感動の渦に巻き込んだ。このような幸せな時間を過ごすことができるのも「平和」だからこそである。

次年度の合唱コンクールも文化会館での開催を実現したい。そして、できることならば、創立八十年を祝う記念すべきコンクールであればと考える。全学年の壮大な歌声を聴く感動は、それ自体が、まさに「平和」の感受であり、「やさしさ」に通じると信じている。

故郷の多良岳をはじめ、美しい自然に見守られながら、歌とともに心を耕し、心身を成長させることは、長い人生を歩み続ける糧となるに違いない。

上山地区民生委員児童委員協議会

会長 市丸 憲一

三年ごとの民生委員児童委員の全国一斉改選が、十二月にありました。諫早市では、十一月二十九日(土)に諫早文化会館大ホールにて退任される方、百二十二名の方に感謝状が贈られました。また、新任委員、再任委員の方には、県知事ならびに諫早市長からの委嘱状伝達式が行われた次第です。

上山地区では、三名の方が退任されました。三名の方には、十五年から六年尽力していただき感謝している次第です。また、いろいろなご縁があり、楽しかったです。と、いろいろお話を聞くことができました。今回、新任委員の方が、三名(原口町二名、西郷町一名)仲間として、活動することになりました。安心して、過ごせる活動をしていきたいと思ひます。

上山地区は、欠員が五名(西郷町一名、立石町一名、新道町一名、船越町一名、上野町一名)発生しています。一日も早く、欠員が解

消されることを願うのみです。

上山地区民児協の主な取り組み・

行事を紹介します。

一、定例会の開催(毎月一回、全員が参加する会)

二、役員会の開催

三、見守り、相談、支援活動

四、高齢者サロンの集いの支援

五、子育てサロンの運営

六、ひとり暮らし高齢者の集いへの協力

七、児童福祉週間における、児童・

生徒に対する、挨拶・声かけ運動等です。

今後とも、上山地区にお住いの方々の健康と幸せを願い、互助の精神で、活動していきたいと思っています。今後とも、よろしくお願ひいたします。



老後モ元気に!!

南地区老人クラブ連合会

会長 渋谷 軍一

人生一〇〇年時代と言われる現代、老後を元気に・自立して楽しく生き続けられることは、何よりも望ましく幸せなことと思います。そのためには、日々の生活態度が大事であることは、みんな自覚していることと思います。しかしながら、人間だれでも楽な人生を送られれば、これ良しと思う心で暮らしていることが多いかもしれません。『楽あれば苦あり』と言われるているごとく、家にじっと座ってテレビ相手ばかりの生活は楽かもしれませんが、しかし、そのうちに体力・筋力とも低下していつかフレイル(虚弱体質)となり、将来は要介護状態となることは必至と考えられます。高齢者(65歳以上)の5人に一人は認知症になるといわれております。こんなに認知症・要介護者への対策は、かなり進んではきていますが、現状その医療専門者の数が不足していると言われており、この先、私達が満足の

いく療養が受けられるか不安もあります。そういった将来のことも思いながら、私は極力フレイルにならないよう可能な限り、外(地域)に出て身体を動かすこと、声を出すことを心がけているところです。ボーリング・グラウンドゴルフ・カラオケ・いきいきサロン等に参加しております。

みなさんも、趣味やサークル活動にすすんで参加されることを推奨いたします!

ペタンク球技

市老連 健康推進部 山口 学

ペタンクの発祥地はフランスの南、プロヴァンスの港町ラ・シオタと聞いている。一九一〇年頃助走をつけて投げる「プロヴァンス」というゲームから派生し「ピエ・タンケ(両足を揃える)」という語源となつて「ペタンク」と名付けられたそうです。我が老連で毎年二回六月チーム数四十以上、参加者は一四〇名ぐらい一二月も同じ規模で旧長田小学校跡地で、

長田地区の人々の協力のもと運営しています。ルールは至って簡単です。場所(試合会場)縦三メートル横十二メートルの長方形が取れる敷地があれば出来るスポーツで、ビュットという的になる直径三センチの丸い玉一個と、色違いの金属製で直径七センチ、重量七〇〇グラムの玉さえあれば完了です。

ゲームは(三人対三人)で一人二個つつ玉を持ち、先行からビュットを投げ、投げたチームより玉を的めかけて投げ次に相手が投げます。的に遠いチームが近づけるまでのゲームで、最終ゲームで試合がひっくり返る可能性があり最後まで予断をゆるさない、スリリングなスポーツです。

今まで述べたようにだれでも手軽で出来るスポーツで、どうぞ皆さんも是非やってはいかがですか?

道具は老連事務所ですいつでも借りられます。どうぞ利用してはいかがでしょう。